

令和 5 年 10 月 25 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K11030

研究課題名（和文）周産期から取り組む母親の役割自信構築支援のための基礎的研究

研究課題名（英文）A study to support mothers in building self confidence in their roles, beginning in the perinatal period

研究代表者

高橋 由紀（Yuki, Takahashi）

名古屋大学・医学系研究科（保健）・准教授

研究者番号：80346478

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000 円

研究成果の概要（和文）：研究目的は、産後の母親の身体的回復が母親役割の自信にどのように関連しているのか検討し、産後の母親の役割適応を促進する具体的な助産実践を提示することである。研究対象となった女性は184名（初産婦92名、経産婦92名）、平均年齢は 31.5 ± 4.5 歳であった。母親役割の自信は、産後5日目から産後1か月にかけて高まった。母親役割の自信の高さには、経産婦であること、会陰切開を施行していないこと、産後1か月の栄養方法が母乳のみであること、会陰部痛による日常生活への支障がないことが関連していた。助産師は、母親となる女性が心身ともに健康的な産後の生活および母親役割への適応が円滑に進むよう支援する必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、育児不安や抑うつ予防に寄与しうる母親役割の自信に着目し、母親役割の自信と、助産師が分娩時や産後の入院中に介入可能な日常生活への支障との関連を明らかにした。したがって、日常生活への支障に関連する会陰損傷予防、会陰部痛軽減のケアを行うと共に、産後の女性が、会陰部痛や日常生活への支障を抱えながらも、育児がスタートする時期を順調に過ごせるよう環境を整えていくことが、母親役割の自信の向上につながり、ひいては、育児不安や産後うつ予防に寄与する可能性を示唆できた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the study is to examine how postpartum mothers' physical recovery is related to their confidence in the maternal role. Findings will be used to examine specific midwifery practices that promote postpartum mothers' role adaptation. The study population consisted of 184 women (92 first-time mothers and 92 postpartum mothers). Maternal-Confidence in the role increased from the fifth postpartum day to the first postpartum month. Higher confidence in the mother's role was associated with being a multiparous woman, not having a perineal incision, breastfeeding exclusively for the first month postpartum, and no disruption in daily life due to perineal pain. Midwives need to help mothers-to-be facilitate a physically and mentally healthy postpartum life and transition into the role of mother.

研究分野：助産学

キーワード：会陰部痛 母親役割移行 母乳育児 日常生活の支障

1 . 研究開始当初の背景

わが国では、周産期のうつや虐待予防は健康な次世代を確保するための喫緊の課題である。一方で、産後うつを軽減しうる効果的な支援方法は未だ明確ではない。我々は、これまでの研究で、助産ケアが母子精神衛生の向上に寄与することを示唆してきた。先行研究において、産後の疲労に着目した研究は多くあるが、会陰部痛を含めた産科学的要因と心理・社会的要因を考慮して、母親役割の【自信】を形成する影響要因を明らかにした研究はほとんどない。

2 . 研究の目的

本研究は、正期産で単胎児を出産した女性を対象に母親役割の自信に関連する要因を明らかにし、産後の母親の役割適応を促進する具体的な助産実践を提示すること目的とした縦断調査による量的記述研究である。

3 . 研究の方法

調査実施期間は、2018年10月から2020年4月であった。研究方法は、東海地方にある分娩を取り扱う産院5施設において妊娠後期から産後1か月までの質問紙による縦断調査を実施した。研究計画段階では、産後4か月までのフォローアップ調査を予定していたが、COVID-19感染拡大をうけて調査が中断したまま研究期間が終了したため、産後1か月までの調査となった。

4 . 研究成果

全リクルート数293名のうち、産後1か月までの解析対象となった産後女性は184名(初産婦92名、経産婦92名)であり、2022年度はこれまで収集できた対象者の結果を用いて、初産産別に産後1日目の会陰部痛に関連する要因を検討した。

本研究参加者は、日本人の出生動向と大きな差はなかった。(表1)。

会陰部痛は、初産婦経産婦ともに、産後1日目から5日目、産後5日目から1か月にかけて、有意に軽減した(図1)。会陰部痛と日常生活の支障との関連は、産後1日目、5日目においては、会陰部痛と「座位への支障」「動静への支障」「排泄と清潔への支障」は有意な正の相関が認められた。しかしながら、産後1か月においては、有意な相関は認めなかった(表2)。しかしながら、産後女性は、会陰部痛を有することそのものが、日常生活動作の支障につながる事がわかった。線形混合モデルを用いて、排泄と清潔への支障に関連する要因を示した(表3)。会陰部痛や会陰切開の有無、会陰損傷を調整後も、産後1日目、5日目の排泄と清潔への支障は、産後1か月に比べ有意に強く、初産婦、会陰に損傷があった女性、会陰部痛が強い女性は、排泄と清潔への支障が強いという結果であった。生殖器の支障は、産後1か月以降に増加する尿漏れの原因となるだけでなく、性交への影響もあることから、会陰部痛が産後の女性のQOL、夫婦関係に与えるインパクトがしめされた。次に、線形混合モデルによって、母親役割の自信に関連する要因を検討した。分娩歴(初産婦/経産婦)、会陰切開の有無、栄養方法、児の体重増加量、会陰部痛、日常生活への支障を調整後も、産後5日目の母親役割の自信は、産後1か月に比して有意に低く、経産婦、会陰切開をしなかった女性、産後1か月の栄養方法が母乳のみであった女性、日常生活への支障が少ない女性は、母親役割の自信が高いという結果であった。この結果から、初産婦と経産婦では、母親役割獲得過程に異なる要因が関連することが示唆された。

会陰部痛、日常生活への支障、母親役割の自信の関連について、産後5日目においては、会陰部痛と日常生活への支障は、母親役割の自信と有意な弱い負の相関を認め、産後1か月においては、日常生活への支障のみが、母親役割の自信と有意な弱い負の相関を認めた(表4)。

産後5日目、1か月の母親役割の「自信」に関連する要因について検討した。退院から産後1か月までの子どもの一日あたりの体重増加量が多いことと、母親役割の自信は有意な弱い正の相関を認めた(表5)。同様に、線形混合モデルによって、母親であることの「満足感」に関連する要因を検討した。産後1か月の栄養方法が母乳のみであった女性は、母親であることの満足感が高いという結果であった。母親であることの満足感には、会陰部痛や日常生活への支障は関連が認めなかった(表6)。これらの結果から、会陰部痛と母親役割の自信との関連は直接的には認められなかったが、日常生活への支障を介して母親役割の自信に影響する可能性が示唆された。会陰部痛、日常生活への支障は、母親であることの満足感との関連は認めなかったことから満足感は、会陰部痛や日常生活への支障に関係なく経験できる感覚と考えられ、分娩直後の早期母子接触の実施や早期母乳育児の開始、同室など、母子が一緒に入れるような環境を整えていくことが、重要な支援であることが考察された。

これらの成果の一部は、2021年に開催されたWorld Association for Infant Mental Health 17th World Congressにて発表し、2024年Nagoya Journal of Medical Scienceに原著論文として掲載予定である。また、大学および大学院の講義においても、この結果を示しながら母性看護学教育、助産学教育を行っており、学生自身にも「会陰部痛」に目をむけるような芽が育っている。今後も共同研究者らとともに、論文投稿を継続していく予定である。

	全体(n=184)	初産婦(n=92)	経産婦(n=92)
	Mean ± SD	Mean ± SD	Mean ± SD
母親の年齢(歳)	31.5 ± 4.5	30.3 ± 4.6	32.7 ± 4.0
分娩週数(日)	39w4d ± 7.2	39w4d ± 7.7	39w4d ± 6.6
分娩第Ⅱ期(分)	37.4 ± 49.9	60.8 ± 61.7	14.3 ± 11.3
分娩所要時間(時)	9.8 ± 9.0	13.6 ± 10.8	6.0 ± 4.1
分娩時出血量(ml)	369.1 ± 284.5	416.7 ± 318.6	322.1 ± 238.8
児の出生時体重(g)	3063.2 ± 362.1	2954.0 ± 334.7	3172.5 ± 357.1

	全体(n=184)		初産婦(n=92)		経産婦(n=92)	
	n	(%)	n	(%)	n	(%)
非妊時BMIに基づく妊娠中の体重増加3群						
推奨範囲未満	34	(18.5)	19	(20.7)	15	(16.3)
推奨範囲内	100	(54.3)	46	(50.0)	54	(58.7)
推奨範囲以上	50	(27.2)	27	(29.3)	23	(25.0)
分娩様式2群						
自然分娩	161	(87.5)	73	(79.3)	88	(95.7)
吸引分娩	23	(12.5)	19	(20.7)	4	(4.3)
会陰裂傷の程度						
会陰裂傷なし	22	(12.0)	1	(1.1)	21	(22.8)
Ⅰ度	18	(9.8)	2	(2.2)	16	(17.4)
Ⅱ度	141	(76.6)	86	(93.5)	55	(59.8)
Ⅲ度	3	(1.6)	3	(3.3)	0	(0)
会陰切開の有無						
あり	101	(54.9)	76	(82.6)	25	(27.2)
なし	83	(45.1)	16	(17.4)	67	(72.8)
産後1か月；児の栄養方法(n=149; 初産婦n=76, 経産婦n=73)						
母乳のみ	84	(56.4)	36	(47.4)	48	(65.8)
混合栄養 + 人工乳のみ	65	(43.6)	40	(52.6)	25	(34.2)

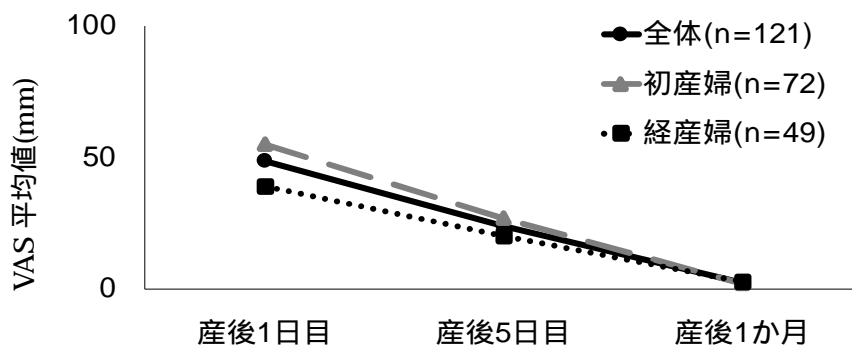


図1.産後の会陰部痛の推移

表2. 会陰部痛と日常生活動作の支障との関連

	産後1日目 (n=184)		産後5日目 (n=184)		産後1か月 (n=121)	
	相関係数	P値	相関係数	P値	相関係数	P値
座位への支障	0.55	<0.01 *	0.63	<0.01 *	0.05	0.60
動静への支障	0.57	<0.01 *	0.59	<0.01 *	0.14	0.12
排泄と清潔への支障	0.45	<0.01 *	0.51	<0.01 *	0.06	0.51

表3. 産後1か月までの「排泄と清潔への支障」に関連する要因

	推定値	95% 信頼区間	P値
産後1日目(vs産後1か月)	7.11	(6.16 - 8.05)	<0.01*
産後5日目(vs産後1か月)	4.92	(4.23 - 5.62)	<0.01*
初産婦(vs経産婦)	1.17	(0.05 - 2.29)	0.04*
自然分娩(vs器械分娩)	-0.28	(-1.68 - 1.13)	0.70
会陰切開なし(vsあり)	-0.47	(-1.57 - 0.63)	0.40
会陰損傷なし(vsあり)	-2.34	(-3.87 - -0.80)	<0.01*
会陰部痛	0.06	(0.05 - 0.07)	<0.01*
母親の年齢(歳)	0.09	(-0.02 - 0.19)	0.11

表4. 会陰部痛, 日常生活への支障, 母親役割の自信の関連

	産後5日目			産後1か月		
	(n)	相関係数	P値	(n)	相関係数	P値
会陰部痛	(181)	-0.16	0.04*	(119)	0.08	0.39
日常生活への支障	(181)	-0.30	<0.01*	(118)	-0.23	0.01*

表5. 母親役割の自信に関連する要因

	産後5日目			産後1か月		
	(n)	相関係数	P値	(n)	相関係数	P値
児の体重増加量(g/日)†	(173)	0.19	0.01*	(116)	0.22	0.02*
	(n)	平均値 ± SD	P値	(n)	平均値 ± SD	P値
分娩歴‡						
初産婦	(90)	44.4 ± 10.0		(70)	52.7 ± 8.2	
経産婦	(91)	58.3 ± 9.0	<0.01*	(50)	62.6 ± 9.3	<0.01*
分娩様式2群‡						
自然分娩	(158)	52.2 ± 11.6		(103)	57.5 ± 10.1	
吸引分娩	(23)	45.8 ± 11.5	0.01*	(17)	52.6 ± 8.3	0.06
会陰損傷の有無‡						
あり	(159)	50.4 ± 11.7		(114)	56.5 ± 9.7	
なし	(22)	58.7 ± 9.0	<0.01*	(6)	63.2 ± 13.6	0.11
会陰切開の有無‡						
あり	(98)	47.0 ± 11.0		(72)	53.7 ± 8.3	
なし	(83)	56.6 ± 10.4	<0.01*	(48)	61.5 ± 10.4	<0.01*
産後1か月の栄養方法‡						
母乳のみ	(83)	54.8 ± 10.3		(51)	60.0 ± 9.8	
混合栄養+人工乳のみ	(64)	47.7 ± 12.0	<0.01*	(48)	54.9 ± 9.6	0.01*

表6. 産後1か月までの「母親であることの満足感」に関連する要因

	推定値	95% 信頼区間	P値
産後5日目 (vs産後1か月)	-0.91	(-1.84 - 0.01)	0.054
初産婦 (vs経産婦)	0.17	(-1.45 - 1.79)	0.84
会陰切開なし (vs会陰切開あり)	1.05	(-0.56 - 2.67)	0.20
1か月の栄養方法: 母乳 (vs混合+人工乳)	1.57	(0.29 - 2.86)	0.02*
退院から1か月: 児の体重増加量 (g/日)	0.06	(-0.01 - 0.12)	0.08
会陰部痛	0.01	(-0.02 - 0.03)	0.72
日常生活への支障	-0.01	(-0.06 - 0.03)	0.50

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 柳瀬 千恵子, 山田 安希子, 高橋 由紀	4. 巻 35
2. 論文標題 分娩を取り扱う助産所助産師がとらえる産後ケアと助産所の存在役割	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本助産学会誌	6. 最初と最後の頁 88-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡邊実香 高橋由紀 大橋幸美	4. 巻 -
2. 論文標題 医療従事者が捉えた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 拡大下における生殖医療機関の診療体制の変化と高齢不妊患者の治療状況及び通院時の様子	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本看護研究学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 渡邊 実香, 大橋 幸美, 高橋 由紀	4. 巻 22
2. 論文標題 イツにおけるベビークラッペ (Babyklappe) 運用実態の視察報告	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護医療学会	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yuki Takahashi, Kerstin Uvnas Moberg, Lena Maria Lidfors, Eva Nissen, Anna-Berit Ranso - Arvidson and Wibke Christina Jonas	4. 巻 -
2. 論文標題 Epidural analgesia with or without oxytocin, but not oxytocin alone, administered during birth disturbs infant pre-feeding and sucking behaviors and maternal oxytocin levels in connection with a breastfeed two days later	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Frontiers in Neuroscience	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 M Hirose, K Tamakoshi, Y Takahashi, T Mizuno, A Yamada, N Kato	4. 巻 15
2. 論文標題 The effects of nausea, vomiting, and social support on health-related quality of life during early pregnancy: A prospective cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Psychosomatic Research	6. 最初と最後の頁 e0243463.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpsychores.2020.110168	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Brimdyr Kajsa, Cadwell Karin, Svensson Kristin, Takahashi Yuki, Nissen Eva, Widstrom Ann Marie	4. 巻 16
2. 論文標題 The nine stages of skin to skin: practical guidelines and insights from four countries	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Maternal & Child Nutrition	6. 最初と最後の頁 e110168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/mcn.13042	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 高橋由紀 浅野みどり	4. 巻 21
2. 論文標題 モンゴル国における母子保健研修報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護医療学会	6. 最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiko YAMADA, Yuki TAKAHASHI, Masami HIROSE, Yurika USAMI, Saho MARUYA, Koji TAMAKOSHI	4. 巻 86
2. 論文標題 Factors associated with perineal pain on the first postnatal day after vaginal delivery: A cross-sectional study of primiparous women	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Nagoya Journal of Medical Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Inthaphatha Souphalak, 山本 英子, Viengsakhone Louangpradith, 高橋 由紀, Alongkone Phengsavanh, 狩谷 哲芳, ソー ユーモン, 浜島 信之
2. 発表標題 ラオスの首都ヴィエンチャンにおける産後うつと関連する因子
3. 学会等名 日本国際保健医療学会 第39回西日本地方会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田辺圭子, 谷純子, 高橋由紀
2. 発表標題 つわりの有無にみる妊娠期の女性の栄養摂取と食生活習慣
3. 学会等名 第61回日本母性衛生総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田辺圭子, 谷純子, 高橋由紀
2. 発表標題 体型別にみる妊娠期の女性の栄養摂取と食生活習慣
3. 学会等名 第61回日本母性衛生総会・学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Satoshi Yago, Emi Tsukamoto, Asuka Saito, Yuki Takahashi, Eiko Saito
2. 発表標題 UTILIZATION OF THE NEWBORN BEHAVIORAL OBSERVATIONS (NBO) SYSTEM IN EARLY INTERVENTION FOR INFANTS AND THEIR PARENTS: A SCOPING REVIEW
3. 学会等名 EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS 2021 VIRTUAL CONFERENCE (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田安希子、高橋由紀、神谷実希、長谷川智美、武藤衣真
2. 発表標題 褥婦が自覚する身体部痛と日常生活の支障感の産後1か月までの推移
3. 学会等名 第34回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳瀬千恵子 山田安希子 高橋由紀
2. 発表標題 分娩を取り扱う助産所助産師がとらえる産後ケアに対する認識と地域における助産所の存在意義
3. 学会等名 愛知県母性衛生学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 A Yamada, Y Takahashi, M Kamiya, Y Usami
2. 発表標題 Difficulties with daily life activities during early postpartum: relationship with postnatal depression at 1 month postpartum
3. 学会等名 WAIMH (Postpone) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Y Takahashi, A Yamada, K tanabe, M nagata
2. 発表標題 Usage of mobile device during the first mother-infant interactions immediately after birth-a case report
3. 学会等名 WAIMH (Postpone) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

周産期ケア向上のためのプロジェクト
<https://takahashi-yuki.info/>
周産期ケア向上のためのプロジェクト
<https://takahashi-yuki.info/laboratory/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	玉腰 浩司 (TAMAKOSHI Koji) (30262900)	名古屋大学・医学系研究科(保健)・教授 (13901)	
研究分担者	奈良間 美保 (NARAMA Miho) (40207923)	京都橋大学・看護学部・教授 (34309)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------